講演録

がんばれる事への感謝

富士通神戸支社開設50周年記念
「エグゼクティブセミナー」
特別講演

プロゴルファー
古市 忠夫 氏

profile

ふるいち ただお　1940年神戸市生まれ。立命館大学経済学部卒業。1995年、阪神・淡路大震災で自宅と経営していたカメラ店を焼失。以後地域の復興に奔走する傍ら、自らの復興としてプロゴルファーに挑戦。2000年、60歳を目前に日本プロゴルフ協会（PGA）資格認定プロテストに合格。この実話をもとにした映画『ありがとう』は大きな話題を呼んだ。2002年関西プロゴルフグランドシニア選手権優勝などシニアトーナメントで活躍中。著書・関連書籍多数。

震災が教えてくれた感謝の心

私が住んでいた神戸市長田区鷹取商店街は、1995年の阪神・淡路大震災で全焼しました。そんなすべてを失った「カメラ屋のおっちゃん」が、本日、595回目の講演をさせていただいております。震災後、私には8つの奇跡が起こりました。まずは、何といっても普通のゴルフ好きのおっちゃんが「プロゴルファー」になってしまったこと。そして、このような「講演会」に数多く呼んでいただくようになったこと。また、自著を含め私に関するたくさんの「本」が出版されたこと。さらに、「テレビ」出演と、私の半生が「映画」になったこと。世界一の「タイガー・ウッズ選手」と試合をしたこと。プロになって「10勝」したこと。そして8つ目が、世界のゴルファー憧れの地、「セント・アンドリュース」に行けたことです。震災直後の状況を思えば、この8つの出来事はまさに奇跡です。

震災前の私は、成功するために必要なものは、個人の才能や努力、運であると思っていました。物やお金、名声や地位、夢は努力すればかなえられると信じていました。しかし、震災ですべてを失ってから、自分のその考えが一変してしまいました。本当に大切なものは人を思いやる心、いたわる心、感謝、友情、積極性、そして勇気であると気付いたのです。震災後3カ月が経ったころ、仲間から気晴らしにと誘われてゴルフに行ったとき、私はゴルフができるということへのありがたさに涙が止まらなくなりました。会社があるから働ける。健康であるから働ける。コミュニティがあるから家族皆が安心して生活できる。そのときから、すべてに感謝する心が私の中に生まれました。そして、いつしかラウンドの前後には必ず一礼をするようになっていました。

プロテスト挑戦の原動力

感謝は人の心を大きく、美しく、若く、強くします。怖いものがなくなります。そして、感謝とともに大切なのが、どんなことにも屈せずに前を向いて自分の思いを貫くという絶大なる積極性です。そこに、目標に向かってチャレンジしようとする意志が加わったときに真の勇気が生まれます。スポーツでよくいわれる「心技体」の「心」とは、まさにこのことだと実感した私は、それを証明するために、また友人の勧めもあったことからゴルフのプロテストを受けようと決意しました。

しかし当時は、家族を養うことはもちろん、震災の復興もまだまだで、お金はいくらあっても足りません。合格できる保証もないゴルフのプロテストに莫大なお金をかけるなど、考えられないことです。しかも、私が日々行っていたのはゴルフの練習ではなく、一刻も早い復興のために、災害に強く人にやさしい「まちづくり」の活動でした。それでも私は、プロになれなければ別の仕事に就くという約束で、1999年と2000年のプロテストに挑戦しました。2度目で合格することができたからよかったものの、2年間で350万円というお金を工面してくれた「嫁はん」には頭が下がるばかりです。

1度目は不合格でしたが、その不運は必ず幸運に変わると信じ、積極的に臨んだ2度目のプロテストは、まる

で奇跡のようでした。まず、台風による暴風雨という天候が、私にとってラッキーなことでした。なぜなら、条件が悪くなればなるほど、問題になってくるのは心の強さだからです。若いゴルファーたちに私が勝てるのは、その「心の強さ」です。合格への希望を秘めた最終局面で、私は大きなピンチに陥るのです。しかし、キャディーさんの的確なアドバイスによって奇跡的な一打をたたき出し、上がることができたのです。

奇跡を起こす方程式

プロテスト合格をはじめ、信じられないような奇跡が次々に起きたことは、ものすごいパワーを持った人が私を押し上げ、引っ張ってくれた結果としか思えません。多くの人は、奇跡を起こす方程式は、「才能＋努力＋運」という足し算だと思っているのではないでしょうか。しかし私は、「才能×努力×感謝力」という掛け算だと考えています。私は「運」というものは誰でも公平に持ち、そのよしあしは死ぬまでわからないと思っていますので、「運」という言葉は使いません。私の方程式は、数字を入れるとその意味がよくわかります。例えば私の才能が3、一緒にプロテスト受けた相手の才能が10。私の努力が3、相手が10とすると、私は3×3＝9で、相手は10×10＝100。これでは私はとても勝てません。しかし、感謝力で私に10、相手に0.5を掛けたら、90と50になり、私が逆転できるのです。感謝力をアップさせることは、これだけ大きな力があるのです。

私は般若心経を毎日唱えていますが、あるとき新井満さんが書かれた解説書に出会い、般若心経には、「こだわるな」「生まれてきたことに感謝しなさい」「自分の役割を果たしなさい」という3つが書かれていることを学びました。これはまさに私が日々実践していることだと非常に嬉しく思いました。私は震災直後から22年間、自治会長をしておりますが、そんなプロゴルファーはほかにはいないでしょう。今でも通学路で旗を振り、公民館では1週間に1回はトイレ掃除をし、その後にゴルフの練習をしてから講演会へ出かける。これが少しもしんどくないのです。それができる自分が嬉しくて仕方がないのです。感謝することは、脳を活性化し、細胞を若返らせると私は信じています。ですから、どれだけ働いても疲れないのです。

2021年には、中高年齢者が参加できる4年に1度の「ワールドマスターズゲームズ」が関西で開催されます。私はそこに80歳でチャレンジしたいと考えています。感謝の力で「こんなおじんがおるんかい」というスコアを出し、皆様にぜひご覧いただきたいと思っております。

「ありがとう」が社会を変える

私はこれまで様々な人と出会い、励まされる言葉をたくさんいただいてきました。農作業中の大けがで義手になった後、絵手紙を勉強されて先生になった男性からのお便りには、「人は壁にぶつかると強くなると思っていた。でも私はぶつかる度にやさしくなった気がする。それが嬉しい。それがありがたい」とありました。また、私がスランプに陥っていたときには、「壁」という詩に救われました。不治の病と闘っているこの詩の作者の方は、私が壁だと思っていたものを、「扉なのかもしれない」と表現されました。その扉を開ける鍵は、まさに感謝の心だったことに私自身あらためて気付かされました。

私が住む地域には、私の映画を観て講演を聞きにきてくれる修学旅行生がたくさんいます。その中に、それまでの荒れていた態度が、旅行後に一変した中学生がいました。彼は講演で、震災で大きな被害にあいながらも、明るく元気に過ごしている私たちの原動力が感謝の心であることを知り、野球ができること、自分を支えてくれる周りの人々に対して感謝するようになった。自分が「ありがとう」というと、相手も「ありがとう」と返してくれる。それによって自分の心が穏やかになっていったと作文に書いています。子供が変わると家庭

が変わり、学校が変わり、地域が変わります。

震災で落ち込んでいた1995年の2月末、ある大学の先生がすばらしいことをおっしゃいました。それは、「金銭を失うということは、小さなことを失うことである。信頼・信用を失うということは大きなことを失うことである。しかし、勇気を失うということはすべてを失うことである」という言葉です。皆様にも、絶大なる積極性と感謝を持って、一歩一歩進んでいただきたいと思います。